

令和2年3月2日

各位

八戸市医師会
臨床検査センター

ALP・LDの測定方法変更について

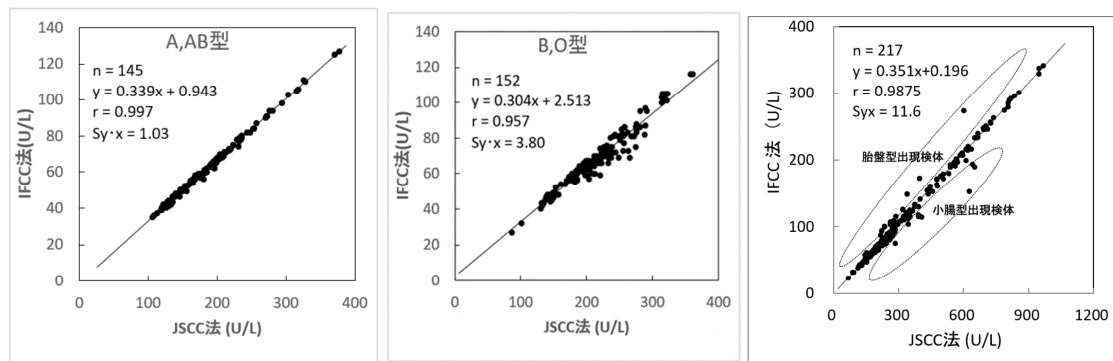
平素、当検査センターをご利用いただきありがとうございます。

日本臨床化学会では、ALPとLDの常用基準法を国際臨床化学連合(IFCC)の基準測定操作法と同一の測定法(IFCC法)に変更することになり、2020年4月1日より準備の整った施設から変更を開始し、1年間での達成を目指すことになりました。

当検査センターでは、2020年4月1日からALPとLDの測定方法を現行法のJSCC法からIFCC法に変更することに致しました。

(1) ALP

現行法のJSCC法は小腸型ALPの反応性が高い試薬処方採用されています。血液型がB、O型でSe(Fut2)が分泌型の人(B、O型の約8割)では病気と無関係に血中に小腸型ALPが出現することから、JSCC法はその影響で臨床的意義が認められない高値が出現する場合があります。また、胎盤型ALPは小腸型とは逆にIFCC法に比べJSCC法では反応性が低いという特徴があります。日本のALP測定値は、国際的な治療指針を利用する場合や治験データとしての利用に支障をきたしているのが現状です。



(日本臨床化学会より)

IFCC法では現行JSCC法の1/3程度の数値になります。

	新測定法 (IFCC法)	現行測定法 (JSCC法)
基準範囲	38~113U/L	115~359U/L

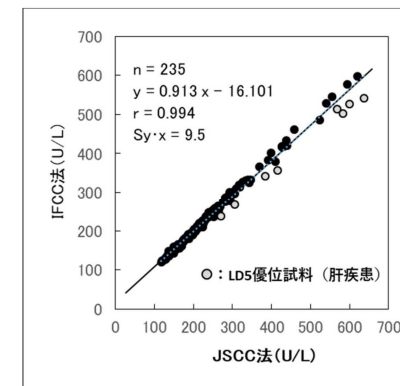
※しばらくの間はIFCC法測定値から換算したJSCC法換算値を併記して報告いたします。ただし、小腸型ALPや胎盤型ALPが増加する症例では換算値は実測値から解離しますので、ご注意ください。

$$\underline{ALP(JSCC)換算値 = ALP(IFCC)実測値 \times 2.84}$$

※項目コード: ALP(IFCC) 00021、ALP(JSCC) 00019

(2) LD

現行法のJSCC法はアイソザイムのLD5が相対的に高く測定されます。これに対して、海外ではIFCCの基準測定操作法の測定条件でLD1とLD5がほぼ同等に測定される方法(IFCC法)を用いています。そのためJSCC法で測定している現在は、LD5の割合が高い症例でIFCC法より高値傾向を示します。また、国際的な治験ではALP同様に国内の測定値が受け入れられないため海外へ検体を送って測定している状況もあります。JSCC法とIFCC法の測定値の差が軽微であり、健常者の測定値は許容誤差範囲内の変化であることから基準範囲の変更はありません。



(日本臨床化学会より)

※項目コード: LD 00020 (項目コードの変更はありません)